

【講師プロフィール】

氏名	小早 祥一郎（こはや しょういちろう）
会社名	株式会社そうじの力
役職	代表取締役
肩書	組織活性化コンサルタント
メールアドレス	info@soujinochikara.com



【セミナーで登壇できる根拠】

昭和43年、兵庫県神戸市生まれ。早稲田大学卒業後、日産自動車株式会社に入社。人事、営業、環境部門などにおいて、制度改革のプロジェクトリーダー等を歴任し、退職。描いていた脱サラ独立プランは壁にぶち当たり、挫折。紆余曲折を経て、あるきっかけで始めた、そうじ（整理・整頓・清掃）が自分自身を変えた経験から、そうじには人を目覚めさせ、組織を活性化させる「力」があることに気づき、そうじを通じた組織変革を支援するコンサルティング会社「そうじの力」を設立（2009年）。累計500社以上を支援し、支援先からは製品不良率30%低減や、利益倍増、新卒退職者5年間ゼロ、不良在庫ゼロ、若手から将来の幹部候補が育っている、などの成果報告が相次いでいる。

【主な実績】

■講演実績

東京商工会議所豊島支部、長岡商工会議所、高崎商工会議所、伊丹商工会議所、彦根商工会議所、八潮市商工会、豊丘村商工会、日本青年会議所岐阜ブロック協議会、恵那青年会議所、関青年会議所、可児青年会議所、大垣青年会議所、高崎青年会議所、中小企業家同友会高崎市支部、埼玉経営者倫理塾、埼玉後継者倫理塾、各地倫理法人会 その他団体や一般企業多数

■著書

- ・『“そうじ”をすると、なぜ会社がよくなるのか』（セルバ出版）
- ・『8割を捨てて2割に集中する 捨てる経営』（スタンダード社）

■メディア掲載

- ・雑誌『致知』インタビュー記事「そうじの力で運命を開く」掲載（2023年1月号）
- ・コミュニティFM「PRESIDENT STATION®」インタビュー出演（2023年8月20日）
- ・日本講演新聞にてコラム連載12回執筆（2018年～2019年）

セミナー企画書

氏名 小早 祥一郎（こはや しょういちろう）

連絡先（電話） 090-3906-3906

【タイトル】

組織力をアップさせる！“そうじの力”で組織風土改革

【概要の説明】

整理・整頓・清掃は常識ですが、はたしてそれは、正しい認識と手順で実行されているでしょうか。どのくらい徹底してなされているでしょうか。

整理・整頓・清掃を徹底することで、事故やケガが激減し、納期遅れがなくなり、品質が向上することはもちろんですが、それだけではありません。

各人の自主性が育ち、創意工夫する力が涵養され、コミュニケーションが活発化します。人材が育ち、「持続的に成長する組織」を作ることができます。

その際に大事なことは、徹底して「不要なものを捨てる」こと。多くの企業が、この認識が欠けているために、失敗しています。

簡単なようで実は難しい、整理・整頓・清掃について、その進め方や、得られるメリット、導入の注意点などについて、豊富な事例写真をもとに、具体的にご説明します。

【受講者対象】

・売上UPに第一に注力してきたために、組織体制が整わず、社内がモノに溢れて雑然としている中小企業の経営者。

・社内の整理整頓に取り組みたいが、なかなか重い腰を上げられない中小企業経営者。

・旧態依然とした経営内容で、変革の必要性を感じているが、何から手をつければいいのかわからない中小企業の経営者。

【受講者が得られるメリット】

・整理整頓をすることで、会社にとってどのような効果が得られるのか理解できる。

・豊富な事例写真による解説で、自社に当てはめて理解することができる。

・具体的な手順、手法を余すところなく公開するので、明日からすぐに自社内で実践できる。

【内容】

1. 企業経営に「整理整頓」が必要な理由

- (1)整理整頓を怠ったために倒産した事例
- (2)整理整頓を徹底して業績が2倍になった事例
- (3)「心」と「体」はつながっている。物理環境の変化が意識を変える。

2. 一番大切なのは「捨てる」こと

- (1)なぜ多くの人が「捨てられない」のか
- (2)モノを捨てるよりももったいないこととは？
- (3)捨ててよいか判断に迷ったときには
- (4)捨てることで業績をアップさせた多数の企業の事例

3. 成功する整理整頓の5ステップ

- (1)順序が大事
- (2)いったん全部出す
- (3)見えない所ほど重要
- (4)局所集中
- (5)皆で取り組む

4. 整理整頓をした先にあるもの

- (1)整理整頓は、未来への投資
- (2)モノから始まり、商品ラインアップも整理＝高付加価値路線に転換したA社の事例
- (3)整理整頓は、究極の人材育成
- (4)整理整頓リーダーから、幹部がぞくぞくと育つB社の事例

5. 社内導入における留意点

- (1)導入の3ステップ
- (2)社長が絶対にやってはいけないこと